

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会認定
家庭医療後期研修プログラム認定申請書
(改訂家庭医療後期研修プログラムの認定に関する細則に基づくもの)

平成25年7月30日

一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会
理事長 殿

以下に記載した内容で、貴学会認定家庭医療後期研修プログラムとして認定していただけますよう申請いたします。

申請者*署名 (自署)
埼玉県秩父市和泉町20番
医療法人花仁会 秩父病院
副院長

*申請者はプログラム責任者になる予定の方です。

*電子ファイルで提出し、このページのみ署名の上郵送またはスキャンファイルで送付して下さい。

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

1. 名称（他のプログラムと容易に区別できること）
『民間二次救急・開放型病院が地域ぐるみで行う、家庭医育成後期研修プログラム』

2. プログラム責任者			
氏名	坂井 謙一	指導医認定番号	2013-81
所属・役職	副院長		
所在地・連絡先	住所 〒369-1874 電話0494-22-3022 FAX 0494-24-9633 E-mail soumu@chichibu-med.jp		
連絡担当者氏名*・役職	山中 隆二（事務長）		*プログラム責任者と別に連絡担当者がいる場合のみ記載
連絡先*	電話 0494-22-3022 FAX 0494-24-9633 E-mail soumu@chichibu-med.jp		

3. 後期研修医定員
1年あたり（ 2 ）名 （×研修期間年数＝総定員 6名）
※総合診療専門研修ⅠおよびⅡにおいて、常勤の要綱28条に定める認定指導医を、その部署で同時に研修する後期研修医3名に対して1名以上配置できる人数に留めること。

4. プログラムの期間
（ 3 ）年間

5. プログラムの概要
<p>近年の医学の進歩は著しく、あらゆる分野で医療はより広く、より深く、そのボリュームを拡大し続けています。そんな中であって、必然的に医療はより細分化し、より特化した知識と技術を備えた専門医が重要視されてきました。しかしながら一方で、より広い領域に対処できる総合医の必要性も叫ばれています。</p> <p>また、日本は正に超高齢化社会に突入し、医療は従来の治す医療から、支える医療へとその重点を変えざるを得ない状況となってきています。多くの分野の医療関係スタッフの役割分担と連携のもと、地域全体で患者とその家族を支えてゆくことが求められています。</p> <p>あらためて当地域の医療について考えてみると、大学病院のような全ての専門科がそろった総合病院はなく、地理的にも、生活・文化圏的にみても、可能な限り自院、あるいは地域内で対応する必要があります。くわえて当地でも高齢化は正に深刻な問題であり、生活習慣病や高齢者特有の疾患に対するケアの充実が必須となってきています。このことは、とりも直さず、総合的診療能力と包括ケアのマネジメント能力を持った臨床医の必要性を迫られるものであり、同時に当地域の医療環境がこのような臨床医の育成に適しているともいえます。なぜなら、このような臨床医は、地域での実践医療の中でこそ育成できるものであるからです。当院のプログラムは以上のような背景の中で、地域に求められる医師、すなわち『総合医としての家庭医』を民間開放型病院である当院が中心となり、地域医療機関の協力の基養成するプログラムです。</p>

受付番号

受付日 20 年 月 日

決定日 20 年 月 日

決定

(具体的内容)

1. 地域ぐるみの取り組み

- ① 秩父郡市医師会及び医師会員の理解と行政の協力の下、地域に密着した診療を長期継続的に行っている秩父郡市医師会員の診療所および自治体病院を含む地域病院、介護福祉関連施設等での研修を可能な限り多くし、家庭医としての基本的資質の育成を最重要項目としています。

(本プログラムの特徴は、人口 70,000 人程の秩父市で二次救急病院が激減する中、絶えず救急医療を根幹から支える努力をしている民間病院と、山間部に囲まれた人口 12,000 人程の町で、メディコ・トリムに取り組みその成果が各分野で評価されている公的病院、更に、人口 8,000 千人程の町で代々地域医療を支え、最近では包括医療を中心に捉え在宅医療に力を入れている診療所が連携し、その施設が得意としている分野を生かし今後、本当に役に立つ総合診療医を養成するためのプログラム構成となっています)

- ② 1市4町で協定が締結された『ちちぶ地域医療協議会』の施策の一つである、『秩父地域の医師・医療スタッフの確保対策』に沿ったプログラムであり、すでに認定されている他病院のプログラムと連携、補填しあったプログラムであります。『地域で医師を育て、医療を確保し、地域全体で地域医療を守る』という明確な目標を持ったプログラムであります。

*『ちちぶ地域医療協議会』とは、秩父市、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町が協定した『ちちぶ定住自立圏』の医療分野における組織です。この協議会は行政からの財政支援があり、秩父郡市内の医師会、歯科医師会、薬剤師会、医療・保険・福祉関係、住民関係団体等の協力を得て構成されています。4つの分科会があり、①医師・医療スタッフの確保、②救急医療体制の維持、③予防医療、④リハビリテーションの充実などに取り組んでいます。官民一体となったプロジェクトであります。

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

2. 当院の独自性を生かしたプログラム

- ① 当院は二次救急病院であり、年齢を問わず、軽傷から重症まで、慢性・急性、外傷、疾病を問わず、あらゆる分野の患者が来院するため、広範囲の診療科の研修が可能であります。また、重症救急患者の受け入れ及び対処不能患者を三次救急医療機関へ転院搬送するため、病院施設内にヘリポートを備えています。
- ② 当院は開放型病院であり、40名以上の医師会の先生方が当院の登録医で、院内、院外（登録医の先生方の診療所）で、多くの専門診療科について、ベテラン医師からの指導、研修が受けられます。
- ③ 当院は52床の許可病床を持っていますが、内5床が開放病床、11床が救急病床、その他は外科、内科、総合診療科の混合病床であり、様々な疾患の入院加療の研修が可能であります。
- ④ 当院は秩父医療圏内の医療連携及び管外医療機関との医療連携の中核的病院であることから、他医療機関からの紹介、逆紹介も多く、緊密な連携体制が確立されており、必要や希望に応じて、他医療機関での研修が可能であります。
更に、医療連携室を中心に入院時の様々なサポートや入院当初から退院時の状態を推測し本人や家族の意見を尊重しながら国の制度利用や施設確保の相談に対応しており制度や後方病院、施設との知識や情報を得ることができます。
- ⑤ 当院は複数の特別養護老人ホームや介護老人保健施設及び訪問診療の体制を取っている複数の診療所の後方受け入れ病院となっており、これら施設での研修が可能です。また、在宅医療や施設入所中に急変した患者のスムーズな対応とそれに伴う研修が可能です。従って、現在日本が抱える高齢者のケアに係わる諸問題に対し現場研修を通して理解すると共に今後の包括ケアの在り方を考察する基礎を築くことが可能です。
- ⑥ 当院は人間ドッグ、癌検診を含む各種健診を行っています。現在の日本は年齢分布の変化と共に疾病動態も大きく変わろうとしています。そこで、当院の多くの健診データを基に時代的推移や今後の疾病予測など研究が可能です。この研究成果を地域社会と連携し対応策を講じる事が可能となれば疾病の発症を予防又は発症時期の遅延が可能となり生活の質の向上につながる事が期待できます。
- ⑦ 当院は歯科を併設しており、歯科医師との連携が可能であります。増加の一途の糖尿病をはじめとする全身疾患は最近の研究で口腔疾患との関わりが大きいことが認められています。正しい口腔ケア等を理解、研修することが可能であります。
- ⑧ 当院は日本医科大学の4病院、埼玉医科大学の3病院、計7病院の研修医制度臨床研修協力施設となっており、地域医療研修としてすでに40名を越す初期研修医を受け入れている。地域医療研修についてはスタッフが一丸となって熱意を持って取り組んでおり、十分な実績と研修を受けた初期研修医の満足度も高いと自負している。（当院ホームページ・研修医アンケート）
したがって、両大学とは緊密な連携、協力関係が構築されており、本プログラムにおいても領域別内科研修は日本医科大学附属病院・総合診療科および埼玉医科大学病院・総合診療内科で行うことができる。
- ⑨ 当院は消化器疾患を中心に複数の学会専門医制度修練関連施設、および指導施設となっており、希望により『家庭医療学会認定専門医』の研修後に、他学会の専門医の資格取得のためのキャリアと受験資格を取得できます。

* 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本外科学会外科専門医制度関連施設

* 日本消化器外科学会修練関連施設 日本消化器病学会修練関連施設

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

モデルとなるローテーション例												
1年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	専門 I	専門 I	専門 I	専門 I	専門 I	専門 I	専門 II	専門 II	専門 II	専門 II	専門 II	専門 II
2年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	専門 II	専門 II	専門 II	専門 II	専門 II	専門 II	内科研修	内科研修	内科研修	内科研修	内科研修	内科研修
3年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	小児研修	小児研修	小児研修	救急研修	救急研修	救急研修	救急研修	領域別研修	領域別研修	領域別研修	領域別研修	領域別研修

(詳細は別紙資料参照)

プログラムの全体構成 (月単位の換算による)			
総合診療 専門研修	総合診療専門研修 I (6) カ月		総合診療専門研修 II (12) カ月
領域別 研修	内科 (6) カ月	小児科 (3) カ月	救急科 (4) カ月
			その他 (5) カ月

6-1. 総合診療専門研修 I

研修施設名 1	国保町立 小鹿野中央病院	診療科名 (内科 総合診療内科 一般外科)
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院	病院病床数 (95) 床 診療科病床数 (45) 床 混合病床
総合診療専門研修 I における研修期間	(3) カ月	
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	
研修期間の分割について具体的に記入してください		
指導医氏名 1	関口 哲夫	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (認定番号 : 2012-123) <input type="checkbox"/> 無	
指導医氏名 2		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input type="checkbox"/> 有 (認定番号 :) <input type="checkbox"/> 無	
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input type="checkbox"/> 有 (認定番号 :) <input type="checkbox"/> 無	

※常勤指導医を確保できない場合、別紙指導医の特例についての申請書を添付すること

要件 (各項目の全てを満たすとき、を塗りつぶす (のように))

ケアの内容
 外来診療 : 生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど
 訪問診療 : 在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事
 地域包括ケア : 学校医、地域保健活動などに参加

施設要件
 患者層 : 研修医の経験する症例は、学童期以下が 5% 以上、後期高齢者が 10% 以上である。
 上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。(※下記に具体例を記入ください)
 (町立病院であることから、町立の保育園や小、中学校など担当する施設は多く、結果、当院への受診率は高くなる。後期高齢者の受診者も多く乳児から高齢者まで診療担当している。)
 アクセスの担保 : 24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。
 具体的な体制と方略
 (地域住民への診療体制が 365 日 24 時間体制で取られており当院への受診歴や健康問題に対する問い合わせ、更に他の医療機関からの患者紹介や助言を求められた場合もこれに答える体制が整えられている)

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

<p>■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略（包括的な対応を迫られる町立病院は、家族やその背景、生活、家庭環境等、心理社会的問題にも対処した診療を行っている。また、一方で高齢化が進んでいる地域でもあり、慢性疾患、生活習慣病や脳卒中、心疾患の患者が多く長期にわたり外来通院が必要な患者が多いため、継続的ケアが必要となっており実際の診療でも継続的なケアを実践している）</p> <p>■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略（一般病床と医療療養病床を有する町立の病院である。高齢者の患者も多く、継続的に慢性期の患者も多く診察している。人間ドックを始め各種検診を実施、健診結果に基づく健康指導を実施している。高齢者の終末期の患者が多く緩和ケアを行っている患者も少なくない）</p> <p>■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略（包括ケア体制が整っており、多様な町立の施設との連携を始め民間の医療や介護施設との連携は良好に保たれている）</p> <p>■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な体制と方略（家族単位で受診するケースが珍しくなく、担当医や看護師、社会福祉士といった様々なメディカルスタッフが関与するケースが多い。年齢階層別にアセスメントを行い、最善なプロセスを構築することを目的にスタッフ間の連携を重視している病院である。）</p> <p>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な体制と方略（町立の病院であり、町の保健センターは病院と隣接している。この為、自治体病院の特性を生かし、行政と一体となった地域包括ケアに取り組んでいる。また、人間ドック、各種検診も行っている。町の地域住民に対する疾病予防のため町民教育、健康指導、運動指導等は全国的に見ても傑出していて、町民の一人あたりの医療費は極めて低くこれからの高齢者社会に向けて模範的な取り組みが評価されている。また、すでにプライマリ・ケア連合学会認定家庭医療後期研修プログラムを認可されている）</p> <p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 具体的な体制と方略（町立の病院であり地域住民に対して定期的な訪問診療を行っている。住民の急変時の対応や最近では緩和ケア病棟を整備し緩和にも積極的に取り組んでいる）</p>

週当たり研修日数：(5) 日
総合診療専門研修Ⅰの研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数
内容
日数
日/週

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

6-1. 総合診療専門研修 I					
研修施設名 4	南須原医院		診療科名 (外科 内科 整形外科 リウマチ科 形成外科 麻酔科)		
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院		病院病床数 (0) 床 診療科病床数 () 床		
総合診療専門研修 I における研修期間		(3) カ月			
研修期間の分割		<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり <small>研修期間の分割について具体的に記入してください</small>			
指導医氏名 1	南須原 宏城		<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤		
学会認定指導医資格	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (認定番号:) <input type="checkbox"/> 無 * (平成 25 年 7 月指導医養成講習会受講、認定試験合格)				
指導医氏名 2			<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤		
学会認定指導医資格	<input type="checkbox"/> 有 (認定番号:) <input type="checkbox"/> 無				
指導医氏名 3			<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤		
学会認定指導医資格	<input type="checkbox"/> 有 (認定番号:) <input type="checkbox"/> 無				
※常勤指導医を確保できない場合、別紙指導医の特例についての申請書を添付すること					
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))					
ケアの内容					
<input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加					
施設要件					
<input type="checkbox"/> 患者層：研修医の経験する症例は、学童期以下が 5%以上、後期高齢者が 10%以上である。 <input checked="" type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。(※下記に具体例を記入ください) (町で代々続く診療所で昔から多くの患者は家族単位で受診している。当診療所の特徴は後期高齢者の受診が多くみられる反面、町立学校の校医といった立場から学童期の予防接種や感染症を中心に小児の受診も多い。)					
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 (診療所は自宅と併設されている。地域の代表的な診療所であり医療を通して住民との信頼関係は強固である。3 6 5 日、24 時間を通し直接来院する患者も多い。又、不在時にも連絡可能な様に転送電話機能等を取り入れ急を要す場合に対応している)					
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 (町の診療所として 3 代にわたり献身的な医療を提供しており必然的に継続して診療を受けている患者が多い。)					
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 (急性期医療はもちろん、高齢者に関する健康維持増進、慢性疾患の長期対応、がん、非がんを問わずの緩和ケア (特に高齢者) 医療を幅広く担当している。)					
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 (町の診療所には急性期の後方病院の確保、慢性期においては介護・福祉関係機関との連携といった個々の状態に応じた対応が要求される。当地域を代表する医療機関として果たす役割は多種にのぼる。医療供給の乏しい当地域の役割は大きく様々な施設との連携が重要である。当診療所はそれらに対応する基盤が確立されている。)					
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な体制と方略 (地域の住民が代々、一家族単位で受診している。時には、一家族四代で受診する場合もあり受診する構成年齢は様々である。従って、各年齢層への対応が求められる)					
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な体制と方略 (長瀬町を代表する診療所である。町役場と一体となり保険、医療を通して健康保持、増進をめざし集団的アプローチを計画的に行っている。)					
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 具体的な体制と方略 (在宅支援診療所の登録を行っている。日本麻酔科学会専門医であり、在宅緩和ケア、特に疼痛ケアの専門医である。当然ながら在宅での看取りも多い。秩父病院の開放病床登録医でもある)					
週当たり研修日数：(5) 日					
総合診療専門研修 I の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数					
内容					
日数	日/週				

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

6-2. 総合診療専門研修Ⅱ		
研修施設名 1	医療法人花仁会秩父病院	診療科名 (総合診療科)
施設情報	病院病床数 (52) 床	診療科病床数 (52) 床 混合病床
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	(12) カ月	病棟診療6カ月 外来診療6カ月
研修期間の分割	■なし □あり	
研修期間の分割について具体的に記入してください		
指導医氏名 1	坂井 謙一	■常勤 □非常勤
学会認定指導医資格	■有 (認定番号: 2013-81) □無 (日本内科学会総合内科専門医・厚生労働省指定臨床研修指導医)	
指導医氏名 2	山田 正己	■常勤 □非常勤
学会認定指導医資格	■有 (認定番号:) □無 * (平成25年7月指導医養成講習会受講、認定試験合格)	
指導医氏名 3	大野 哲郎	■常勤 □非常勤
学会認定指導医資格	■有 (認定番号:) □無 * (平成25年7月指導医養成講習会受講 認定試験合格) 厚生労働省指定臨床研修指導医	
指導医氏名 4	芝崎 保	□常勤 ■非常勤
学会認定指導医資格	■有 (認定番号:) □無 * (平成25年7月指導医養成講習会受講、認定試験合格)	
※常勤指導医を確保できない場合、別紙指導医の特例についての申請書を添付すること		
要件 (各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))		
ケアの内容		
■病棟診療: 病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題(心理・社会・倫理的問題を含む)を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。		
■外来診療: 臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。		
施設要件		
■一般病床を有する		
■救急医療を提供している		
病棟診療: 以下の全てを行っていること		
■高齢者(特に虚弱)ケア 具体的な体制と方略(入院患者の約5割、外来患者の約二割五分は後期高齢者である。また、全身麻酔手術症例の4割は後期高齢者である。その内の約半数はがんの患者であるが、姑息的手術に終わる場合や手術摘要のない患者も多い。また、二次救急病院であるため、脳血管疾患、心疾患など重症例が外来入院共に多い。対処不能例では速やかに三次救急病院への転院を行っているが、多くの虚弱、重篤高齢者が入院となる。回復期リハビリ施設や療養病床を持つ施設への円滑な転院、連携に努めているが当院で長期にケアしなければならないケースも少なくない。また、当院は当地域での最終的病院の使命を担っており重篤な高齢者のケアおよび緩和ケアは当院の重要な役割の一つとなっている)		
■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略(複数の専門医、医療専門職の円滑な連携によるチーム医療の実践。週一回のドクターミーティング、院内全ての職域の全体カンファランスの実践。ソーシャルワーカーを中心とした医療連携室の設置。その他、患者サポート担当者、退院調整担当者を配置し、治す医療にとどまらず、精神的、心理社会的な問題への対応まで、患者と家族を支えるための医療を実践している。医師個人の資質の向上、特に医師としての総合力の強化を目指し、スタッフ全体も取り組んでいる。 (常勤医師6名の内、一人はすでにPC連合学会の家庭医研修の指導医であり、今回3名が認定試験を受験、更に6名の非常勤医師も認定試験を受診した)		
■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略(院内の常勤医は主に消化器を中心とした複数の学会の専門医、指導医であり、二十五名いる非常勤医のほとんどが何らかの科の専門医である。例えば、呼吸器、循環器、脳神経、膠原病、糖尿病、整形外科、形成外科、臨床腫瘍科等の専門医である。これらの医師との連携は全く問題ない。精神科、心療内科、婦人科についてもコンサルトする体制は整っている。加えて現在日本医科大学の総合医療・健康科学教室、埼玉医科大学の総合診療内科との強固な連携を構築中である。(本プログラムでは必須領域の内科研修をお願いすることとなっている)		
■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略(毎週1回、医師、看護師、社会福祉士、事務職員等が集まりカンファランスを行っている。問題を広義な視点から捉え必要な場合は市町村窓口や保健機関との連携を通し問題解決にあたっている)		

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

<p>■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（高齢者のケアの項目で概略は記したが、疼痛ケアについては医師、薬剤師、看護師が緩和ケアチームを結成し対応している。非常勤ではあるが埼玉医科大学より継続的に臨床腫瘍科専門医が派遣されており、専門的な対応に当たっている。非癌患者の対応は主治医の指示の基、看護師、介護士が中心となり QOL の維持、改善に努めている。また、PT の指導により、早期のベットサイドリハビリ、当院の歯科医による術前、あるいは定期的な口腔ケアを行っている）</p>
<p>■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（当院では退院調整担当者により入院当初から退院を視野に入れた様々な調整を行っている。患者の状態に即して、必要な場合は長期療養施設や介護施設など当院の医療連携システムを生かした対応を行っている）</p>
<p>■在宅患者の入院時対応 具体的な体制 （在宅療養を行っている患者が入院治療を要する場合はかかりつけの有無に関わらず入院受け入れの体制が確立されている。当地区は、二次救急病院が激減し、最大で七病院から現在は当院を含めて三病院となったが、休日夜間は三病院が輪番で対応している。したがって、休日夜間であっても緊急を要する場合は、かかりつけか否か、在宅治療の患者か否かは関係なく必ず三病院の何れかの病院が診察し対応している。また、在宅の主治医との連携もほとんどが当院の開放病床の登録医であり、スムーズに行われている）</p>

<p>外来診療：以下の診療全てを行っていること</p>
<p>■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（当院は二次救急指定病院であると共に個人で来院する救急患者にも対応している。各科共に随時初診外来を受け付けている）</p>
<p>■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（外来総数で高齢患者は6割を超える。その多くの患者の中に単一疾患は殆どなく多くの患者は複数の疾患を患っており臓器別管理は不可能である。主治医は幅広い診断と治療知識が求められ更に包括的視点に立った管理能力が求められる。当院はその対策について相談する窓口が整えられている施設である。専門外来のみではなく、総合診療内科、一般内科、一般外科外来を開設している。当院の医師たちは中堅からベテランではあるが、さらに自己の守備範囲を拡張すべく真の総合医を目指し奮闘中である。初診患者に対しては受付の段階で診療科の案内を行っており相談室も備えて対応している）</p>
<p>■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（外来患者総数のうち約4割程度が高血圧や高脂血症、糖尿病といった頻度の高い症候や疾患である）</p>
<p>■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（外来患者に対する症例検討は随時行われている。入院患者家族に対する IC は EBM に基づき必ず行われており、外来患者についても随時同様な方策で行うよう努めている。医局内を始め部長室、各部門でインターネットによる文献検索ができるシステムが備わっている。その他、多数の医学会誌が整備されている。更に必要な場合は追加申請できる窓口も整備されている）</p>
<p>■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（複数の健康問題に対しての包括的なケアについては院内各科の専門医、各メディカルスタッフ、更には他施設と連携を取りながら問題解決に当たっている）</p>
<p>■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（必要に応じた専門医との連携の項にも記したが、診断困難患者の対応については院内で週1回の検討会を開催すると共に未解決事項については連携先の大学病院や各種研究機関も交え対応しておりその手法も確立されている）</p>

週当たり研修日数：（ 5 ）日	
総合診療専門研修Ⅱの研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数	
内容	
日数	日/週

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

6-3. 領域別研修：内科					
研修施設名 1	日本医科大学付属病院	診療科名	(総合診療センター 総合診療科)		
病院病床数	(899) 床				
領域別研修 (内科) における研修期間		(6) カ月 (何れか一施設又は二施設合わせて六か月)			
指導医氏名 1	安武正弘 (主任教授)				
臨床経験年数	(29) 年				
有する認定医・専門医資格	日本医師会認定産業医 日本内科学会総合内科専門医 日本循環器学会専門医 集中治療専門医 日本心血管インターベンション治療学会名誉専門医 老年病専門医 脈管学専門医				
要件 (各項目を満たすとき、口を塗りつぶす (■のように))					
ケアの内容					
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する。					
施設要件					
■医師法第 16 条の 2 および関係省令で定める基幹型または協力型臨床研修病院である。					
■内科病床数が 50 床以上ある。		(52) 床 (総合診療科として)			
■内科常勤医が 5 名以上いる。		(8) 名			
■後期研修プログラムの認定に関する細則第 9 条 (5) に定める指導医が病院全体として 3 名以上いる。 (5) 名					
週当たり研修日数：(5) 日					
領域別研修 (内科) の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数					
内容					
日数 日/週					
研修施設名 2	埼玉医科大学病院	診療科名	(総合診療内科)		
施設情報	病床数 (1085) 床				
領域別研修 (内科) における研修期間		(6) カ月 (何れか一施設又は二施設合わせて六か月)			
指導医氏名 1	中元秀友 (教授、腎臓)：診療科長				
臨床経験年数	(30) 年				
有する認定医・専門医資格	日本内科学会指導医 日本腎臓病学会指導医 日本プライマリ・ケア連合学会指導医 日本透析医学会指導医 日本高血圧学会指導医 修練指導医 米国内科学会専門医				
要件 (各項目を満たすとき、口を塗りつぶす (■のように))					
ケアの内容					
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する。					
施設要件					
■医師法第 16 条の 2 および関係省令で定める基幹型または協力型臨床研修病院である。					
■内科病床数が 50 床以上ある。		(25) 床 (総合診療科として)			
■内科常勤医が 5 名以上いる。		(17) 名			
■後期研修プログラムの認定に関する細則第 9 条 (5) に定める指導医が病院全体として 3 名以上いる。 (10) 名					
週当たり研修日数：(5) 日					
領域別研修 (内科) の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数					
内容					
日数 日/週					

※研修施設が 3 箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること。

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

6-4. 領域別研修：小児科					
研修施設名 1	秩父市立病院		診療科名 (小児科)		
病院病床数	(165) 床		診療科病床数 (39) 床 混合病棟		
領域別研修 (小児科) における研修期間		(3) カ月			
指導医氏名 1	加藤 哲司				
臨床経験年数	(12) 年				
有する専門医資格	日本小児科学会 専門医				
要件 (各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))					
ケアの内容					
<input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的によく遭遇する症候や疾患の対応を経験する。 <input checked="" type="checkbox"/> 救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する。 <input checked="" type="checkbox"/> 病棟診療：日常的によく遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ。					
施設要件					
<input checked="" type="checkbox"/> 小児領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 小児科常勤医がいる。 (2) 名					
週当たり研修日数：(5) 日					
領域別研修 (小児科) の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数					
内容					
日数 日/週					
研修施設名 2			診療科名 ()		
病院病床数	病床数 () 床		診療科病床数 () 床		
領域別研修 (小児科) における研修期間		() カ月			
指導医氏名 1					
臨床経験年数	() 年				
有する専門医資格					
要件 (各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))					
ケアの内容					
<input type="checkbox"/> 外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的によく遭遇する症候や疾患の対応を経験する。 <input type="checkbox"/> 救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する。 <input type="checkbox"/> 病棟診療：日常的によく遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ。					
施設要件					
<input type="checkbox"/> 小児領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる。 <input type="checkbox"/> 小児科常勤医がいる。 () 名					
週当たり研修日数：() 日					
領域別研修 (小児科) の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数					
内容					
日数 日/週					

※研修施設が3箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること。

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

6-5. 領域別研修：救急科					
研修施設名 1	医療法人花仁会秩父病院				
病院病床数	(52) 床	年間救急搬送件数	夜間休日救急受診 (2,250 件)、内救急車搬送 (772 件)		
指導医氏名 1	花輪 峰夫 (日本救急医学会員、麻酔標榜医、日本外科学会外科専門医・指導医)				
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))					
ケアの内容					
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する。					
施設要件 (下記のいずれか)					
□救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設					
■救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関 (救急搬送件数が年に 1000 件以上)					
指導医要件					
■救急科専門医あるいは救急に専従する医師					
ブロック研修、兼任研修のいずれかを選択し、□を塗りつぶす (■のように)					
■ブロック研修					
→領域別研修 (救急科) における研修期間 (4) カ月					
□兼任研修					
→どの研修と組み合わせるか ()					
週あたり研修日数 () 日、研修期間 () カ月					
週当たり研修日数：(5) 日					
領域別研修 (救急科) の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数					
内容					
日数	日/週				
研修施設名 2					
病院病床数	() 床	年間救急搬送件数	() 件		
指導医氏名 2					
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))					
ケアの内容					
□救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する。					
施設要件 (下記のいずれか)					
□救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設。					
□救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関 (救急搬送件数が年に 1000 件以上)。					
指導医要件					
□救急科専門医あるいは救急に専従する医師					
ブロック研修、兼任研修のいずれかを選択し、□を塗りつぶす (■のように)					
□ブロック研修					
→領域別研修 (救急科) における研修期間 () カ月					
□兼任研修					
→どの研修と組み合わせるか ()					
週あたり研修日数 () 日、研修期間 () カ月					
週当たり研修日数：() 日					
領域別研修 (救急科) の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数					
内容					
日数	日/週				

6-6. 領域別研修：その他

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

研修領域	必修・ 選択別	ブロック・ 兼任の別	週あたり 研修日数 (兼任の場合)	研修期間	研修施設名と 診療科名	指導医氏名
一般外科	■必修 □選択	□ブロック ■兼任	(2)日	(1)カ月	片田医院	片田隆行
整形外科	■必修 □選択	□ブロック ■兼任	(2)日	(1)カ月	三上医院	三上 倫
精神科	■必修 □選択	□ブロック ■兼任	(2)日	(1)カ月	秩父中央病院	内田里華
心療内科	■必修 □選択	■ブロック □兼任	(2)日	(1)カ月	竹越医院	竹越 至
産婦人科	■必修 □選択	□ブロック ■兼任	(2)日	(1)カ月	岩田産婦人科医院	城谷誉子
皮膚科	■必修 □選択	□ブロック ■兼任	(2)日	(1)カ月	大越医院	亀田淑子
泌尿器科	■必修 □選択	□ブロック ■兼任	(2)日	(1)カ月	城谷医院	城谷健二
眼科	■必修 □選択	□ブロック ■兼任	(2)日	(1)カ月	小峰眼科医院	小峰輝男
耳鼻咽喉科	■必修 □選択	□ブロック ■兼任	(2)日	(1)カ月	久喜医院	久喜まき子
放射線科 (診断・撮影)	■必修 □選択	□ブロック ■兼任	(2)日	(1)カ月	花仁会秩父病院	坂井謙一
臨床検査・ 生理検査	■必修 □選択	□ブロック ■兼任	(2)日	(1)カ月	花仁会秩父病院	坂井謙一
リハビリ テーション	■必修 □選択	□ブロック ■兼任	(2)日	(1)カ月	秩父生協病院	山田昌樹
その他 ()	□必修 □選択	□ブロック □兼任	()日	()カ月		
その他 ()	□必修 □選択	□ブロック □兼任	()日	()カ月		

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

3. 後期研修医の評価方法（研修修了認定の方法も含めて）

- 評価は、当院の指導医・各領域の院外指導医（評価委員という）が各領域の終了ごとに行う
- 秩父病院内に「院内研修医評価委員会」を設置し、三か月に1回開催する。
- 「院内研修医評価委員会」評価委員で構成され委員長は秩父病院病院長がこれに当たる
- 研修医は上記の評価委員および評価委員会に各研修領域の終了ごとにレポートポートフォリオを提出して評価を受ける
- 評価の対象は各領域での実践に対する評価委員による評価とレポートポートフォリオであり、主体的かつ客観的に行う
- 研修医は週1回行われる当院の早朝カンファレンスに参加し当院常勤医師の支援を受ける。研修医は月に1回開催される医師会の症例検討会に症例報告と研修経過報告を行い、随時参加医師会員より助言、支援を受けつつ評価を受ける
- 3年間の研修期間中に、最低2回の学会発表または論文発表を行う。この際、必ず秩父郡市医師会の症例検討会にて予演会か学会発表報告を行い、その内容を当院又は院外の評価委員会で評価する
- 総括評価はポートフォリオの課題達成とプログラム目標の80%以上の達成をもって及第とする。

- 3年間の修了時、各領域の評価および年次評価を当院の指導責任者と院内外の各領域の評価委員が「研修終了時院内研修医評価委員会」を開催し総合判定を行い病院長が判断を下す

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

4、プログラム質の向上・維持の方法

- 研修医を発展途上にあるかわいい後輩と捉え、惜しみない助言と指導を行い、同時に当院にとって、新鮮で意欲にあふれ、最新の医学知識を満載しある活力の根源と認識し、彼らと共に自院と医局員自身が成長することを目標に、同志として触れ合ってゆく
- 彼らに豊富な症例経験をさせ、積極的な指導、助言を行うと同時に、プロとしての自覚と責任を要求し常にお互いの意識の高揚を図る
- あらゆる機会を通じ、彼らに地域医療における『総合医としての家庭医』の重要性を訴え、認識させることにより自己の役割を自覚させ、地域医療に貢献することの喜びを与え続ける
- 前項の評価システムを持続的に実践することにより、適度の緊張と向上心を維持するよう努める
- 常に研修目標の進捗状況を主観的、客観的に確認し、研修医自らの満足と反省を引き出す目標達成のための支援方法、具体的指導内容を研修医の個々の状況や性格・能力に応じて柔軟に対応し、問題点があれば速やかに改善する
- 研修システムとしての研修スケジュールやプログラム内容を状況に応じて評価検討し、問題点が判明したら、躊躇なく改善し、質の向上に努める

《添付資料》

病院概要、医師スタッフ紹介、外来担当表、診療情報（手術実績、紹介・逆紹介実績、救急統計、医師会症例検討会症例提示実績、学会・論文発表実績、開放病床登録医名簿）

当院パンフレット、広報誌『秩父病院だより』 『ちちぶ医療協議会』パンフレット

ホームページアドレス (<http://www.chichibu-med.jp>)